住まいのしあわせを、ともにつくる。
住宅金融支援機構

令和７年２月７日

2024 年度 住宅ローン貸出動向調査結果

調査の概要

本調査は、住宅ローンを取り扱う金融機関を対象に、住宅ローンの取扱状況についてアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。

なお、本調査は住宅金融支援機構設立時から継続して実施しております（2020 年度から調査名称を一部変更）。

（参考）調査実施時期：2024 年７月～９月、回答機関数：301 機関

調査結果の主なポイント

※ 〔 〕は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

○ 約７割の金融機関が新規の住宅ローンの取組に積極的 〔p. ４〕

＜新規の住宅ローンへの取組姿勢＞
「積極的」 ：71.8%（2023年度調査 72.1%）
「自然体（現状維持）」 ：27.6%（2023年度調査 27.9%）
「消極的（慎重、縮小）」 ： 0.7%（2023年度調査 0.0%）

○ 住宅ローンの商品力強化の取組として「返済期間 35 年超のローン提供」の割合が増加 〔p. ７〕

＜商品力強化の取組＞
「返済期間35年超のローン提供」 ：75.8%（2023度調査 57.0%）
「団体信用生命保険の保障内容の充実」：44.1%（2024年度からの選択肢） 等

○ 日本銀行の金融政策変更を受けて、住宅ローン金利の見直しに関するお客さまからの照会が「増えている」または「多少増えている」と回答した金融機関は５割超 〔p. 19〕

＜１年前（2023年６月末）と比べたお客さまからの照会状況の変化＞
「増えている」または「多少増えている」 ：53.2%
「変わらない」 ：45.5%
「やや減っている」または「減っている」 ： 1.3%

○ リバースモーゲージの新規貸出件数は引き続き増加 〔p. 34〕

＜リバースモーゲージ新規貸出件数＞
2021年度実績：1,694件
2022年度実績：2,260件
2023年度実績：2,405件（2022年度比＋6.4%）